

第117号

まちのくすりやさん

今回のおはなし

「アレルギー 食道や胃腸にも」

「無煙タバコ製品「スヌース」



アレルギー 食道や胃腸にも

のどの詰まりや胸焼け 国内でも症例

食べ物や花粉によって食道や胃腸に炎症が起き、のどの詰まりや胸焼けにつながる「消化管アレルギー」の患者が、国内でもみつかるとなってきました。ステロイドによる治療や、アレルギーの原因となる食材を取り除いた食事療法が試みられています。

事例：昨春から胸焼けがするようになり、近くの診療所で処方された胃薬では改善せず、半年後には、のどのつまりも気になり始めました。内視鏡検査や組織を調べた結果「好酸球性食道炎」と診断されました。

この「好酸球性食道炎」は、口に入った食物や微生物によるアレルギー反応で、好酸球という白血球が食道の粘膜などで増えることで起きます。胸焼けや胸痛、うまく食べ物を飲み込めないなどの症状がでます。重症化すると、食道が狭くなって食べ物が詰まることもあります。

好酸球性食道炎の患者は、30～50代の男性に多く、半数はぜんそくや花粉症などアレルギーの治療歴があるそうです。食物が原因で急激に生じるアナフィラキシーとは異なり、時間をかけて炎症が起きて症状が出てくるとみられています。この食道炎は、1990年頃から欧米で患者が増え始め、日本では2006年に初めて確認されました。島根県内の医療機関で内視鏡検査を受けた2万人を調べると、この食道炎がある人の割合は、2010年には5000人に1人でしたが、2014年には約2500人に2人と報告されています。

治療は、まずPPIを使って効果をみます。この薬で、患者のほぼ半数が改善します。PPIが効かない場合、ステロイドを使った治療法が有効だとわかってきました。吸入ステロイドを患部の周囲にとどまらせると、その後分解されるため、副作用の影響が少ないといわれています。

消化管アレルギーは、食道炎だけでなく、胃や小腸で起きる胃腸炎もあります。胃腸炎は腹痛や下痢などがあり、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢で発症します。吸入ステロイドでは患部に届かないため、全身に効くステロイドを治療に使います。

消化管アレルギーは、原因となる食品を特定して取り除けば、根治できる可能性が高いです。ステロイド治療は、使い続けると骨粗鬆症やうつ病の副作用がでる恐れがあり、薬を減らすと再び症状がでることもあります。

治療を受けられる病院も限られていて、国内では、現在、島根大病院と国立成育医療研究センターにとどまっているそうです。

ガ・タバコ

XX



XX

平成25年8月より一部の地域において新しい形体のたばこ製品・スヌースの販売が行われており、日本学術会議よりスヌースの使用による健康影響を懸念する「無煙タバコ製品（スヌースを含む）による健康被害を阻止するための緊急提言」が公表されています。

スヌースの使用は、幼小児の誤飲を含めた種々の健康影響が懸念されることから、以下に健康影響に関する情報を提供します。

「スヌース」とはどのようなものですか？

「スヌース」は、加工したたばこ葉を入れた「ポーション」と呼ばれる小袋を口に含み上唇の裏にはさんで使用する無煙たばこの一種です。

「スヌース」とはどのような健康影響があるのでしょうか？

「スヌース」には、ニコチンだけでなく、「たばこ特異的ニトロサミン」などの多くの発がん性物質が含まれています。そのため、使用により口腔がんなどの原因となるほか、歯周疾患を引き起こし、循環器疾患のリスクも高める可能性があります。また、紙巻きたばこの安全な代替品とはならないことが、指摘されています。

健康上の注意点

「スヌース」は、前述のように通常の紙巻きたばこと同様に様々な健康リスクを高めるとともに、依存性を生むことが指摘されています。

また、「スヌース」は、使用が分かりにくく青少年を含めた非喫煙者の喫煙誘導（ゲートウェイ）になる可能性が指摘されています。

さらに、「スヌース」の容器は、菓子等と見間違えるような外装で、ポーションは小さく異物とは認識しがたいため、幼小児が容易に誤って口に含み、誤飲・誤用が発生することが懸念されています。

国際的な動向について

「スヌース」を含む無煙たばこは、国際がん研究機関（IARC）により、グループ1：（ヒトに発がん性があるもの）と分類されています。

XX



XX

（一社）浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812（月～金：10～15時）

Fax 047-355-6810

メールアドレス toiawase@urayaku.jp

ホームページ <http://www.urayaku.jp/>